

ボランティアに参加する価値はいくらなのか？

有償ボランティアにおける金銭的謝礼がボランティア参加動機に与える影響¹

川嶋健太郎・北原 靖子²・蓮見 元子²

要 約

本研究では女子学生を対象に有償ボランティアに参加するならば謝礼額をいくらと希望するか尋ねることで、そのボランティアへ参加することの価値を測定し、希望謝礼金額とボランティアの魅力・負担度および有償ボランティアへの意識、ボランティア参加動機との関連性を調べた。この結果、希望謝礼金額はボランティア証明の有無および有償ボランティアへの意識により変化をしていた。一方、Volunteer Function Inventoryで測定されたボランティア参加動機と希望謝礼金額には一貫した関連性が見られなかった。

はじめに

「ボランティア」と聞くとほとんどの人がまったくの無償奉仕を想像するだろう。しかし、現在の日本では何らかの形で金銭的支払いをボランティアとして参加した人に支払うことが多い。謝礼金額は単に交通費を支払うものから、アルバイト時給をやや下回る金額のものなど様々である。このような謝礼を伴うボランティアは有償ボランティアと呼ばれ、自治体やNPOがボランティアを募集する際に多く用いられている。また明確に有償であるとは言わないまでも、ボランティア先までの交通費などへの補助があるボランティア活動も多い(小野, 2007)。また金銭的ではないものの「ボランティア証明書」といって、ボランティア活動を行ったことを証明する書類を、ボランティア活動を主催する団体が発行することがあり、ボランティア経験を就職活動等でアピールする際などに有用とされている。このほか平成10年度から高等学校において学外ボランティア参加による単位の認定が行われている(学校教育法施行規則第98条3号)。各大学においてもボランティア活動自体が単位認定されたり、ボランティア参加が単位認定要件となっている授業などがある。このようにボランティア活動に伴って、金銭的/非金銭的な報酬が与えられているのが現状である。

ボランティアに報酬が支払われることの大きな理由がボランティア活動に参加・継続を促すためであるといえよう。小野(2005)では有償ボランティアの1時間当たりの平均謝礼金額は828円であり、多くのボランティア団体・NPOで地域の最低賃金を上回らない程度の支給額を目安としているが、人手を維持するためにパート

の賃金を意識する必要があるという。また謝礼の意味づけとしては、ボランティア活動に関わるコスト(交通費・食費)などを保障する役割が考えられる。小野(2005)では謝礼はボランティア参加への動機付けを高めるインセンティブとしての役割には否定的である。

ボランティア活動への謝礼がボランティアへの参加動機づけに与える影響を検討する研究は比較的少ない。Biggora & Baños(1990)は臨床試験へのボランティアにおいて医学生と経験豊富なボランティアの意識、特に金銭的な報酬に対する意識の違いを調査により検討した。この中で医学生の中でボランティアをすでに経験したものは2.9%に過ぎず、39.7%は今後ともボランティアで参加しないという意見であること、また経験豊富なボランティアが参加する理由はその90%が金銭的な報酬であることが示された。van Gelderen, Savelkoul, van Dokkum, & Meulenbelt(1993)においても同様に健康な人が実験に参加するボランティアでの動機を調査した結果、若者は金銭的報酬のために参加する人が多いが、年をとった人は検診を受けられることや他の人たちの利益のために参加していた。一方、Frey & Goette(1999)はスイスでのボランティアデータから金銭的な報酬が支払われるとボランティアが以前よりも働かなくなることを示し、内発的動機付けの観点から検討した。アメリカでの謝礼が支給されるボランティア(stipended volunteer)がボランティア活動を継続的に調査し、ボランティア活動の目標がその後の行動や態度に影響を与えること、ボランティアを継続することで目標が変化することなどが検証された(Mesch, Tschirhart, Perry, &

¹ 本研究の結果の一部は日本心理学会第73回大会において発表された。

² 所属：川村学園女子大学

Lee, 1998; Tschirhart, Mesch, Perry, Miller, & Lee, 2001)。ボランティアに対する謝礼によってボランティアに参加する意欲が高まるかはまだはっきりとした結果が出ていない。

ボランティアへ参加または継続することの動機づけについて、心理的尺度を作成した研究がいくつかある。Clary, Snyder, Ridge, Copeland, Stukas, Haugen, & Miene (1998) は Volunteer Function Inventory (VFI) を作成し「利他主義 (values)」「知識の習得 (understanding)」「社会的つながり (social)」「職業上での成功 (career)」「感情的安寧 (protective)」「自尊心の高揚 (enhancement)」の 6 領域 30 項目でボランティア参加動機を測定している。坂野・矢嶋・中嶋 (2004) は VFI の日本語への翻訳を行い、VFI の各下位尺度とボランティア満足度およびボランティア利益との関係性を検討している。日本においてもボランティアにかかわる動機づけの研究は行われており、妹尾・高木 (2003) ではボランティアに対するインタビューなどをもとにボランティア活動動機測定尺度および援助成果測定尺度を作成している。ボランティア活動を継続する動機は「自己志向的動機」「他者志向的動機」「活動志向的動機」から構成されていた。また援助成果は「愛他的精神の高揚」「人間関係の広がり」「人生への意欲喚起」からなるとされた。また塚本 (2006) はスペインのボランティアを対象に、異なるボランティア活動での参加動機の違いを調べるために妹尾・高木 (2003) のボランティア活動同期測定尺度を用いてアンケート調査している。このほかにもボランティア参加動機を検討されてきた (河合, 2006; 柴田・大東・大山・古川, 2004; 田引, 2005 など)。しかしこれまで有償ボランティアに対するボランティア参加動機付けを検討した研究は行われていない。

ボランティアに参加しようと検討している人はボランティア活動の様々な側面をもとに参加を決定すると考えられる。ボランティア活動自体の魅力度、自分の興味関心、ボランティアの負担具合と合わせて、その人のボランティアに対する意識が主に検討されてきたと言えよう。有償ボランティアが普及する中で、参加決定の重要な要素として謝礼の有無・金額が重要な要素になってくるとは想像に難くない。なぜならアルバイトや就職の決定の際にも仕事の魅力・興味関心・労力も検討するが、もちろん仕事から得られる報酬が仕事の決定において大きな要素になっているからである。非常に負担度の高い仕事に対しては、それに応じた給料が必要である。また非常に魅力的な仕事ならば、たとえ給料が低くても応募する人が多いだろう (例えば世界を旅する仕事や有名人と会える仕事ならば給料がたとえ低くても就職したい人は

いる)。同様に有償ボランティアに参加を検討する際に、魅力的で意義深いボランティアならば謝礼は低額もしくは無償でもよいと考える人は多いだろう。

このことはある人が有償ボランティアに必要と感じる謝礼金額を測定することで、その人にとっての有償ボランティア活動の価値を推測できる可能性を示している。ボランティア活動に必要なと感じる金銭的対価は、ボランティア活動自体の魅力や負担感、非金銭的な報酬の有無および個人のボランティア活動に対する考え方によって影響されるだろう。必要な謝礼金額が低くて済むボランティア活動はその人にとって相対的に価値の高いボランティア活動と考えられる。またあるボランティア活動に必要な謝礼金額以上の金額をボランティア団体・NPO が支払うことができるならば、ボランティアへの参加を検討する際のプラスの材料となると考えられる。

例えば千葉県 A 市における放課後子ども教室は子供のために安全管理をするサポーターングスタッフというボランティアを募集していた。本調査の実施された当時、少額ながら謝礼 (1 参加ごとに 500 円) があるにもかかわらずボランティアの人数が不足しており、放課後子ども教室の運営が困難な状況になっていた。ボランティアの成り手として、放課後子ども教室に参加する子供の両親、地域の中高年ボランティア、大学生が考えられていた。これらの人々にボランティアになってもらうために、ボランティアになる意思決定をする際にはどのような要因があるのか、またどの程度の謝礼が支払われるべきなのかを検討することはボランティアを運営する際の大きな示唆となると考えた。

そこで本研究では大学生・大学院生を対象にボランティアに参加・継続をする意思決定に重要な要因を特定するためアンケート調査を行った。特に学生が行うその他の活動 (アルバイト、余暇活動、学業) とボランティア活動との競合関係を整理するために、あるボランティア活動とその他の活動の選択という形式で調査をした。例えば、あるボランティア活動をする代わりにアルバイトを 1 時間行えば 1,000 円の収入が得られる場合に、学生はどちらを選択するか、検討された。そのボランティア活動の様々な特徴的な要因 (有償であること、ボランティア活動自体の楽しさ、就職に有利、単位に交換可能または単位取得に必要) がアルバイトの代わりにボランティアを行う理由であると考えられる。また同時に有償ボランティアの謝礼についての意識やボランティア参加動機を測定し、有償ボランティアに必要な謝礼金額に影響を与えるのかを検討する。

本研究の主な目的は以下の通りである。目的①ボランティア活動の種類によって必要と感じる謝礼金額が異なるか検討する。活動内容の異なるボランティアを用意し、その魅力度・負担度が希望する謝礼金額に影響を与えるか調べる。目的②「ボランティア証明」を発行することで必要謝礼金額はどうか変化するか検討する。非金銭的な報酬として、現在広く利用されているボランティア証明が有償ボランティアの謝礼金額に与える影響を調べる。目的③有償ボランティアにどのようなイメージを持っているか検討する。以前は一般的にボランティアは無償が当然であると考えられていたが、現在は有償ボランティアが浸透し、学生の間でも珍しいものではなくなっているため、学生たちの有償ボランティアへのイメージの実際を把握する。またボランティアに謝礼が支払われることへの賛成・反対などの意見によって有償ボランティアの希望謝礼金額にも影響があらわれるか調べる。

方法

調査対象者

千葉県にある女子大学において心理学・幼児教育または社会教育を専攻する女子大学生・院生 201 名が調査に協力した。このうち回答に不備のあった 38 名を除いた 163 名を分析対象とした。協力者の平均年齢 20.2 才(SD=2.7)であった。ボランティア経験者は 140 人(85.9%)であった。経験したことがあるボランティアの種別を複数回答で尋ねたところ、障がい児・者の遊び・勉強に関連した活動 52 人(31.9%)、子どもの遊び・勉強に関連した活動 71 人(43.6%)、お年寄りの介護に関連した活動 50 人(30.7%)、イベント(競技会・展覧会などを含む)に関連した活動 48 人(29.4%)、環境保護に関連した活動 43 人(26.4%)、その他の活動 15 人(9.2%)であった。授業等でのボランティア体験ではない、自主的なボランティア経験回数は 1～3 回のみの学生が 69 名(43.1%)であり、20 回以上の経験をしている学生は 12 名(7.4%)であった。

またアルバイトを行っている人数は 105 人(64.4%)であり、アルバイトの平均時給は 903.1 円(SD=122.9)、時給 850 円～1000 円未満が全体の 45.4%であった。

実施方法

集団配布の質問紙調査の形式で行い、大学での講義中に講義担当者の立会いの下で筆者らが実施した。

調査時期

2009 年 1 月に調査を実施した。

質問紙の構成

質問紙はマークシート方式であり、Shared Questionnaire System(SQS)³を用いて作成された。質問紙の構成は以下のとおりである。

- (1) ボランティア歴：これまでのボランティア経験の種類・参加回数の回答を求めた。
- (2) アルバイト歴：1 週間当たりのアルバイト時間およびアルバイトの時給の回答を求めた。
- (3) 有償ボランティアへの報酬・魅力・負担感：有償ボランティアの説明をもとに、ボランティア活動参加に必要な報酬金額と活動自体の魅力および負担感の回答を求めた。
まず有償ボランティアとボランティア証明書の簡単な説明がされた。

「有償ボランティア」とはボランティア活動に対して金銭などが支払われるボランティアのことを言います。一般的なボランティアのイメージは無償での奉仕かもしれませんが、現実にはさまざまなボランティア活動の中で「有償ボランティア」が行われています。有償ボランティアへの謝礼として、お小遣い程度、また最低賃金よりも低い時給が支払われることが多いですが、場合によってはより高い謝礼が支払われることもあります。

また「ボランティア証明書」といって、ボランティア活動を行ったことを証明する書類をボランティアを主催する団体(自治体・NPO など)が発行することがあります。就職活動などの際に、これまでのボランティア経験をアピールするため活用できる場合があります。

次に 2 種類のボランティア活動について説明した。千葉県 A 市で実施されている放課後子ども教室事業における 2 種類のボランティア活動を参考に、仮想のボランティア活動(有償ボランティア 1 および 2)の募集文面を作成した。それぞれのボランティア活動は子どもへの関わり方の程度が異なる。有償ボランティア 1 では放課後子ども教室に参加した子供の安全を見守る活動であり、ボランティア参加者自身から子供へ積極的にかかわる活動ではない。一方、有償ボランティア 2 では子供に自分の特技などを教える活動であり、子どもとの積極的な関わりがある。

³ SQS:Shared Questionnaire System <http://sqs.xml.sourceforge.jp/>。

ボランティアに参加する価値はいくらなのか？

有償ボランティア1(子どもの見守り)：放課後、小学校の教室や校庭で子供たちが危ない目にあわないように見守るボランティアです。いま人手不足で大変必要にされています。ボランティアを行う日は好きな曜日に決められますが、週に1回程度は参加してもらいます。1回あたりのボランティアの時間は2・3時間です。

具体的なボランティア活動の内容は

- ・子どもたちの遊びの見守り(不審人物が来ていないか見守る)
- ・危ないことをしている子どもに注意をする
- ・子どもたちの遊びの手助け(一緒に遊ぶなど)です。

ボランティア活動の説明の後に、有償ボランティアとしての謝礼の説明をした⁴。

このボランティアをすると少し謝礼がもらえますが、謝礼の金額は市の担当者との相談によって決まります。どの程度の謝礼が必要なのか申し出てください(謝礼を断ることも出来ます)。

また有償ボランティア2の説明は以下のとおりであった。

有償ボランティア2(子どもの学び企画)：自分の特技を生かして子どもたちに学びと遊びを教えるボランティアです。いま人手不足で大変必要にされています。ボランティアを行う日は好きな曜日に決められますが、週に1回程度は参加してもらいます。1回あたりのボランティアの時間は日によって異なりますが2・3時間です。

具体的なボランティア活動の内容は

- ・自分の特技(音楽・体育・美術・料理・趣味など)を子どもたちに教える
 - ・子どもが楽しんで取り組めるゲーム・小道具・教材などを準備する
 - ・子どもが積極的に参加するように、様々な行事を企画・立案する
- です。

有償ボランティア1・2それぞれについて、1. 有償ボランティアとアルバイトの選択：有償ボランティアの謝礼が1時間当たりの謝礼がない、または600円の時、一般的な時給1000円のアルバイトとどちらが好ましいか、選択させた。2. 有償ボランティアに必要な謝礼金額：有償ボランティアをするために1時間当たりいくら以上の謝礼ならばやってもよいか、「謝礼は不要」から「1100円以上」まで100円刻みで回答を求めた。3. ボランティア証明書が発行される場合に、有償ボランティアに必要な謝礼金額、4. 有償ボランティアの魅力度：謝礼とは関係なく、ボランティア活動自体の魅力の程度を、まったく魅力的ではないから非常に魅力的まで5段階で回答を求めた。5. 有償ボランティアの負担度：謝礼と関係なく、ボランティア活動自体の負担の程度を、まったく負担にならないから非常に負担になるまでの5段階で回答を求めた。

(4)ボランティア分野別の謝礼金額：有償ボランティア活動を4つの分野に分け、それぞれについて1時間あたり必要な謝礼金額とそのボランティア活動自体の魅力の程度を回答を求めた。用いたボランティアの分野は園部・恵美須・高橋・鈴木・谷口・水野・岡田(2008)を参考にして、障がい児・者の遊び・勉強に関連した活動、お年寄りの介護に関連した活動、イベント(競技会・展覧会などを含む)に関連した活動、環境保護に関連した活動の4つであった。⁵

(5)有償ボランティアの謝礼についての意識：有償ボランティアでの謝礼についての意識を以下の8つの質問項目を作成した。ただし、項目7はボランティア証明についての質問項目である。各質問項目についての回答は「まったく当てはまらない」から「非常に当てはまる」までの7件法であった。項目内容は「X1. ボランティアはまったくの無償(交通費なども無し)であるべきである。」「X2. 有償ボランティアは謝礼金額がアルバイトよりも低いから、ボランティアといえる。」「X3. お金がもらえるとアルバイトのように感じる。」「X4. 毎週決まった時間にやるボランティアならば、お金を払ってもらったほうが長く続けられる。」「X5. 1回限りのボランティアでもお金を支払ってくれたほうがうれしい。」「X6. まったくお金が

⁴ 有償ボランティアの場合には謝礼金額を交渉できる可能性はほとんどない。ここではどの程度の謝礼を必要とするか質問するために架空の交渉を設定している。

⁵ 子供の遊びに関する活動については、有償ボランティア1・2において聞いているため、ここでは省略している

支払われないほうが、ボランティア活動への意欲が高まる。」、「X7.「ボランティア証明書」が発行されるボランティア活動をしたい。」、「X8. ボランティアであっても、交通費などの必要経費は支払われた方がよい。」であった。

- (6) Volunteer Functions Inventory(日本語版)：ボランティアへの参加動機を調べるために、Clary, et al. (1998)の Volunteer Function Inventory (VFI)の日本語訳を用いた(坂野・矢嶋・中嶋, 2004)。VFIはボランティアの機能を利他主義(values)・知識の習得(understanding)・社会的つながり(social)・職業上での成功(career)・感情的安寧(protective)・自尊心の高揚(enhancement)の6つ想定し、それぞれの機能について5つの質問項目、合計30項目で構成されている。Clary, et al.(1998)にならい、各質問項目についての回答は「まったく当てはまらない」から「非常に当てはまる」までの7件法であった。

結果と考察

有償であることがボランティア選択に与える効果

学生はボランティアに参加すると、アルバイトを含むその他の活動がその間できないことになる。もしもボランティアを有償化することによって比較的魅力的なアルバイトを行うよりもボランティアに参加することを選択するならば、有償化はボランティア参加への動機付けを高める効果があると言える。図1にはボランティアが無償の場合と有償(1時間当たりの謝礼が600円)の場合に有償ボランティア1および2と時給1000円のアルバイトのどちらをやりたいか選択した、調査参加者の比率を示している。McNemar検定を行った結果、有償ボランティア1, 2どちらにおいてもボランティアが無償の場合よりも有償の場合にアルバイトよりもボランティア

を選択する人の割合が1%水準で有意に高かった。

ボランティアを有償とすることでボランティアへの参加意欲は高まると言えるだろう。今回の学生は平均時給903.1円であるため時給1000円のアルバイトは普段のアルバイトよりも時給が高いため魅力的と考えられる。一方、1時間当たりの謝礼が600円というのは普段のアルバイトの時給よりも低い。有償ボランティア1, 2どちらにおいても有償化することでボランティアを選ぶ人が増加したということは、例えばアルバイトの時給以下だとしてもボランティアに謝礼が伴うことは学生にとっては魅力的であるといえよう。ただし、無償であったとしても有償ボランティア1, 2どちらにおいても28名はボランティアを選択しており、謝礼に関わらずボランティア参加への意欲が高い学生も一定数いることがわかる。

ボランティア証明書の有無と希望謝礼金額の関係

ボランティア証明書の発行が有償ボランティアでの希望謝礼金額に影響を与えるか検討した。図2は有償ボランティアの種類とボランティア証明書の有無別の希望謝礼金額を表している。有償ボランティアの種類とボランティア証明書の有無を要因とした2要因の分散分析を行ったところ、ボランティアの種類($F(1,162)=5.85, p<.01$)とボランティア証明書の有無($F(1,162)=42.96, p<.001$)の主効果および交互作用が認められた($F(1,162)=14.24, p<.001$)。下位検定をしたところ、ボランティアの種類単純主効果はボランティア証明がない場合には有意ではなく($F(1,162)=0.65, n.s.$)、ボランティア証明がある場合には有意であった($F(1,162)=14.97, p<.001$)。またボランティア証明の単純主効果は有償ボランティア1($F(1,162)=49.41, p<.001$)、有償ボランティア2($F(1,162)=25.43, p<.001$)のどちらも有意であった。図2よりボランティア証明がある場合には希望謝礼金額が低くなることが判る。

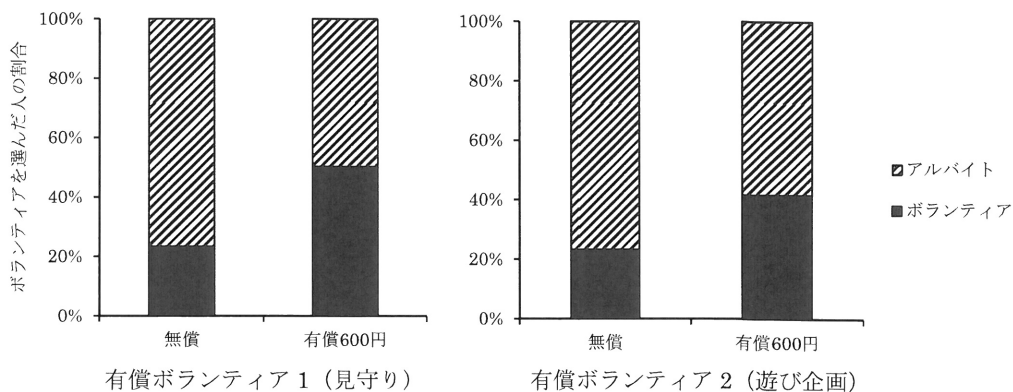


図1 ボランティアが無償または有償の場合にアルバイトよりもボランティアを選択した調査参加者の割合

就職活動や授業の単位認定などのためにボランティア証明書を求める学生は多い。また各ボランティア団体もボランティア証明書を発行することでボランティア参加者を募っている。ボランティア証明書がある場合とない場合でボランティア参加意欲は異なると考えられる。ボランティア証明書を発行することで有償ボランティアでの希望謝礼金額が低下することは、学生にとってボランティア証明書は一種の報酬としての機能を持っていることを示している。

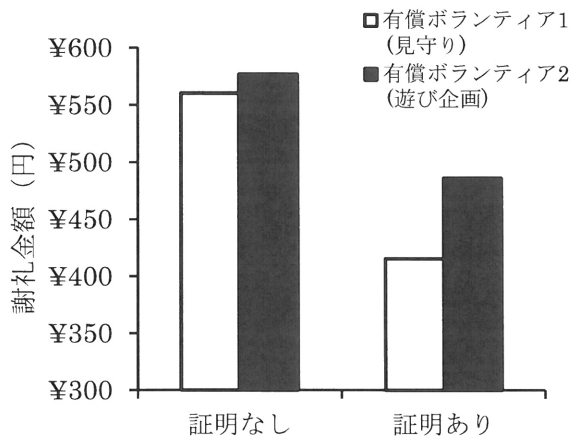


図2 ボランティアの種類とボランティア証明の有無別の希望謝礼金額

有償ボランティアの謝礼についての意識

有償ボランティアの謝礼についての意識の各質問項目について天井効果・フロア効果が見られた項目がなかったことから、すべての8項目に対して探索的因子分析を行った結果(主因子法, プロマックス回転), 2因子が抽出された(表1)。なお回転前の2因子で8項目の全分散の50.20%が説明された。第1因子は4項目で構成されており、「まったくの無償であるべき」「お金を支払って

くれた方がいい」といった項目に高い付加量があることから、「謝礼の必要性」因子と命名した。第2因子は3項目で構成されており「アルバイトのように感じる」「ボランティア証明が発行されるボランティア活動がしたい」などに高い付加量があることから「有償への意識」因子と命名した。各因子を構成する項目の合計得点を算出し、「謝礼の必要性」下位尺度得点(平均 18.23,SD4.11),「有償への意識」下位尺度得点(平均 15.18, SD3.10)とした。内的整合性を検討する α 係数を算出したところ、「謝礼の必要性」で0.68,「有償への意識」で0.54と α 係数の値は低かった。

ボランティア証明の有無以外で謝礼に影響を与える要因

表2は年齢, ボランティア回数, アルバイト時間および時給, ボランティアの魅力および負担, 有償ボランティア意識の下位尺度, VFI 下位尺度の平均値・標準偏差およびボランティア証明書がある場合とない場合の希望謝礼金額を従属変数とした重回帰分析(強制投入)の結果を表している。有償ボランティア1, 2のボランティア証明書ある場合とない場合において, 決定係数は低く当てはまりは良くなかった($Adjusted R^2 = 0.14 \sim 0.26, p < .01$)。すべての謝礼金額について有意であったのは「謝礼の必要性」であった($\beta = .197 \sim .312$)。また年齢も有償ボランティア1の証明なしの謝礼金額を除いて有意であった($\beta = .182 \sim .220$)。また有償ボランティア2に限ればボランティアの魅力が有意であった($\beta = -.209 \sim -.287$)。VFIの各下位尺度についてはすべての謝礼金額について一貫して有意なものはない。以上の重回帰分析の結果は, 有償ボランティアでの謝礼金額は学生がどれだけ謝礼を必要なものと意識しているかによって変化することを示している。ただし「謝礼の必要性」下位尺度得点は内的整合性が低いいため, 今後, 有償ボランティア意識についての質問項目を増やして検討する必要がある。

表1 有償ボランティア意識の因子分析分析結果 (Promax 回転後の因子パターン)

項目内容	I	II
X1 ボランティアはまったくの無償(交通費なども無し)であるべきである。	-.743	.258
X6 まったくお金が支払われないほうが, ボランティア活動への意欲が高まる。	-.674	.120
X5 1回限りのボランティアでもお金を支払ってくれたほうがうれしい。	.479	.320
X8 ボランティアであっても, 交通費などの必要経費は支払われた方がよい。	.474	.151
X2 有償ボランティアは謝礼金額がアルバイトよりも低いから, ボランティアといえる。	.153	.100
X3 お金がもらえるとアルバイトのように感じる。	-.303	.617
X4 毎週決まった時間にやるボランティアならば, お金を払ってもらったほうが長く続けられる。	.343	.586
X7 「ボランティア証明書」が発行されるボランティア活動をしたい。	.025	.439
因子間相関	I	-.414

表2 ボランティア証明の有無別の謝礼金額の重回帰分析結果（強制投入）

	平均 (SD)	β			
		有償ボランティア1		有償ボランティア2	
		証明なし	証明あり	証明なし	証明あり
年齢	20.18 (2.72)	.135	.201 *	.182 *	.220 *
ボランティア回数	6.32 (10.75)	-.120	-.182	-.093	-.140
アルバイト時間(時間)	8.89 (7.62)	.043	-.080	.036	-.048
アルバイト時給	903.06 (122.90)	.135	-.007	-.018	-.091
有償ボランティア1 魅力	3.73 (0.84)	-.126	-.118		
有償ボランティア1 負担	2.96 (0.91)	.166 *	.108		
有償ボランティア2 魅力	3.61 (0.97)			-.287 **	-.209 *
有償ボランティア2 負担	3.40 (0.98)			.115	.148
有償ボランティアの謝礼についての意識					
謝礼の必要性	18.23 (4.11)	.312 **	.216 *	.302 **	.197 *
有償への意識	15.18 (3.10)	.118	.072	.148	.144
Volunteer Functions Inventory					
感情的安寧	16.18 (4.94)	-.136	-.231 *	-.158	-.164
利他主義	22.66 (4.56)	-.292 *	-.226	-.059	-.078
職業上の成功	23.91 (4.73)	-.148	-.070	-.001	-.002
社会的つながり	18.58 (5.14)	.034	.155	.073	.176
知識の習得	25.48 (5.16)	.152	.174	.154	.199
自尊心の高揚	22.18 (5.62)	.341 *	.220	.049	-.015
Adjusted R ²		0.23 **	0.14 **	0.26 **	0.20 **

有償ボランティアの魅力度と負担度

ボランティアの内容によって、ボランティアの魅力や負担感は異なると考えられる。図3は有償ボランティア1および2の魅力度および負担度を表している。魅力度については2つのボランティアに有意な違いはなかった($t(162)=1.66, n.s.$)。一方、負担度については有償ボランティア1よりも有償ボランティア2の方が負担度が高かった($t(162)=5.30, p<.001$)。

本研究で用いられた有償ボランティア1および2はボランティアの種類がともに子どもに関連したものであった。その点で魅力度についてはほぼ同じであったと考えられる。一方、負担度については有償ボランティア1の子どもの見守りという内容よりも有償ボランティア2での自分で子ども向けの遊びを企画し運営するという内容の方が準備時間や労力という点で負担に思えるように説

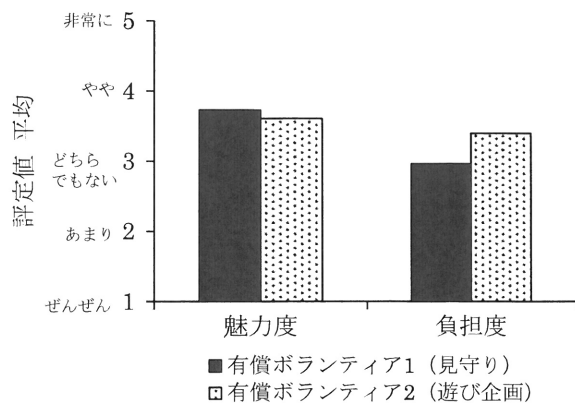


図3 有償ボランティア1および2の魅力度と負担度

明文を作成したため、調査協力者の評定も有償ボランティア2において高かったのだと考えられる。

ボランティア分野別の希望謝礼金額と魅力の程度

図4はボランティア分野(障害児・者への支援, 老人の介護, イベント運営, 環境保護)別の希望謝礼金額(棒グラフ・左縦軸)とボランティア活動の魅力(折れ線グラフ右縦軸)を表している。この評定ではボランティア活動の具体的な内容については詳しい説明を行っていないで、単に各ボランティア分野での活動全般について質問していた。謝礼金額へのボランティア分野の効果について分散分析を行ったところ、有意差がみられた($F(3,160)=16.80, p<.001$)。Bonferroniの方法で多重比較を行ったところ、環境に関連した活動がそのほかの3つの分野のボランティア活動よりも5%水準で有意に低い謝礼金額であった。また同様に魅力の程度へのボランティア分野の効果について分散分析を行ったところ、有意な差がみられた($F(3,160)=8.19, p<.001$)。また Bonferroniの方法で多重比較を行ったところ、お年寄りの介護に関する活動がイベントに関する活動と環境保護に関する活動よりも5%水準で有意に魅力の程度が低かった。

以上のことはボランティア活動としての魅力以外の点で有償ボランティアの希望謝礼金額に影響を与える要因があるものと推測させる。ボランティア分野の中でも環境保護に関連したボランティア活動が他の分野に比べて希望謝礼金額が低かったが、ボランティア活動の魅力という点では他のボランティア分野とほぼ変わりが無い。

今回の調査では負担度については質問していないため不明であるが、環境保護に関連した活動の方が障害児・者への支援や老人介護に比べて負担度が軽いと感じた可能性はある。また近年の地球温暖化に対する報道や教育などから、他のボランティア分野に比べてボランティア活動の重要度・社会貢献度・自分自身への関連度などといった点で調査参加者は環境保護に関連したボランティア活動に高い価値を見ていた可能性もある(安藤・広瀬, 1999)。今後はボランティア分野別の調査参加者にとっての意味づけを調査し、希望謝礼金額との関連を検討する必要があると言える。

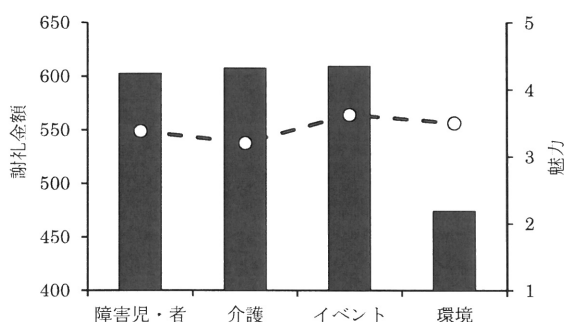


図4 ボランティア分野ごとの希望謝礼金額とボランティア活動の魅力

VFI とボランティア経験との関連

今回の調査ではVFIの各下位尺度と有償ボランティアでの謝礼金額には一貫した関連性が見られなかった。ただし有償ボランティア1および2の魅力度とすべてのVFIの下位尺度の間には有意な弱い相関がみられた($r=0.16\sim 0.38, p<.05$)。有償ボランティアの負担度との間には有意な相関は見られなかった。しかし、このことはVFIで測定されるボランティア参加動機が実際のボ

ランティア参加と関連がないことを示してはいない。

VFIの各下位尺度と調査参加者のボランティア参加経験との関係性を検討した。図5はボランティア経験の程度により、VFIの下位尺度の得点の平均を表したものである。ここでボランティア経験の程度をボランティア経験回数が0を「ボランティア経験なし」($n=32$)、1回から3回までを「ボランティア経験小」($n=69$)、4回以上を「ボランティア経験大」($n=62$)としたものがある。ボランティア経験分類を要因とした1要因の分散分析を行ったところ、感情的安寧($F(2,160)=0.92, n.s.$)および自尊心の高揚($F(2,160)=2.37, n.s.$)については有意差が見られなかったが、利他主義($F(2,160)=3.39, p<.05$)、職業上の成功($F(2,160)=8.18, p<.01$)、社会的つながり($F(2,160)=16.12, p<.01$)、知識の習得($F(2,160)=5.64, p<.01$)のそれぞれのVFI下位尺度についてはボランティア経験分類の主効果が有意であった。以上の結果はVFI下位尺度で測られるボランティア参加動機はボランティア参加経験と関連していることを示している。

まとめ

本研究では有償ボランティアでの希望謝礼金額を測定することを通して、ボランティア活動に対する選好を測定した。ボランティアが有償となることでアルバイトからボランティアへ選択を切り替える調査参加者が増えた。また希望謝礼金額はボランティアの種類・分野によって変化することが示された。これらのことはボランティア活動を決定する際に、謝礼の有無、およびその金額がボランティア活動のその他の要因とともに考慮されていることを示している。本研究においてもボランティアの種類や分野によってその魅力や負担の評価は異なっていた。ただし魅力や負担が希望謝礼金額に影響を与えたか

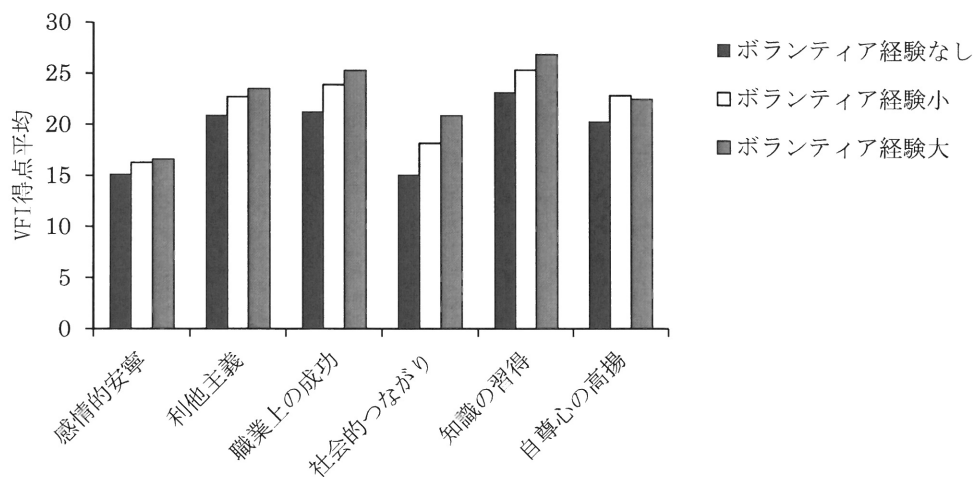


図5 VFI とボランティア経験

否かは今回の結果では明らかではなかった。実際の有償ボランティアにおいても保健・医療・福祉分野のボランティアはそれ以外の分野よりも謝礼金額が低い(小野, 2005)。現実の有償ボランティアではボランティア団体の規模や財政状況によって支払い可能な謝礼が決まることから、ボランティア側の需要(希望謝礼金額)によって実際の謝礼金額が決まっているとは言えない。しかし、多くの場合にはパートの時給や最低賃金を少し下回る程度まで謝礼金額が高まっている理由としては、金銭的な報酬がボランティア参加決定に影響を与えていることを示唆している。

またボランティア証明の有無が有償ボランティアの必要謝礼金額に大きな影響を与えることが今回示された。ボランティア証明は学校での単位認定や就職の際のボランティア活動経歴を証明するためなどに利用されている。このためボランティア証明はボランティア活動に対する非金銭的な報酬とも考えられる。今回の調査でボランティア証明があることによって希望謝礼金額が低くなることから、ボランティア証明には金銭的な価値を持ち得ることも示唆している。就職に役立つのなら、アルバイトでお金を稼ぐことの代わりにボランティアをやっておく、という選択を学生たちが行っているとも言えよう。

本研究ではボランティア参加動機(VFI)と有償ボランティアの希望謝礼金額との間には一貫した関連性は見られなかった。VFI自体は今回の調査でもボランティア経験回数と関連があり(図5)、ボランティアに参加する動機づけを測る点では有用であろう。ボランティアが有償になることにより、アルバイトからボランティアに選択を切り替える学生がいることはVFIのような従来からあるボランティア参加動機では測ることの出来ていない、金銭的なボランティア参加動機があることを示唆している。

今後の展望として、魅力・負担度以外のボランティア活動の特徴が有償ボランティアの謝礼金額に与える影響を検討する必要があるだろう。今回の結果では魅力・負担度についての評価は希望謝礼金額に明らかな影響を与えてはなかった。また今回の調査でも有償ボランティアでの謝礼についての意識を調査したが、質問項目数など不十分であったため尺度として満足のいくものができなかった。「謝礼の必要性」といった要因が希望謝礼金額に一貫した影響を与えていたことから、有償ボランティアに対する意識をより詳細に検討できる尺度を作成する必要がある。

引用文献

- 安藤香織・広瀬幸雄(1999). 環境ボランティア団体における活動継続意図・積極的活動意図の規定因 社会心理学研究, 15(2), 90-99.
- Biggora, J. & Baños, J.E.(1990). Weight of financial reward in the decision by medical students and experienced healthy volunteers to participate in clinical trials, *European Journal of Clinical Pharmacology*, 38(5), 443-446.
- Clary, E.G., Snyder, M. Ridge, R. D., Copeland, J., Stukas, A. A., Haugen, J., & Miene, P.(1998). Understanding and assessing the motivations of volunteers: a functional approach, *Journal of Personality and Social Psychology*, 74, 1516-1530.
- Frey, B.S. & Goette, L.(1999). Does pay motivate volunteers? Working Paper Series: Institute for Empirical Research in Economics University of Zurich.
- 河合武(2006). ボランティアの動機づけ 名古屋産業大学論集 8, 41-47.
- Mesch, D. J., Tschirhart, M., Perry, J. L., & Lee, G.(1998). Altruists or Egoists? Retention in Stipended Service, *Nonprofit Management and Leadership*, 9, 3-21.
- 小野晶子(2005). 「有償ボランティア」という働き方その考え方と実態, 労働政策レポート Vol.3, 労働政策研究・研修機構.
- 小野晶子(2007). 「有償ボランティア」は労働者か? 日本労働研究雑誌, 49, 77-88.
- 坂野純子・中嶋裕樹・中嶋和夫(2004). 地域住民におけるボランティア活動への参加動機と満足度の関連性, 東京保健学会誌, 7, 17-24.
- 妹尾香織・高木修(2003). 援助行動経験が援助者自身に与える効果: 地域で活動するボランティアに見られる援助成果 社会心理学研究 18(2), 106-118.
- 柴田和子・大東貢生・大山治彦・古川秀夫(2004). ボランティア活動の動機における自発性と外発性 龍谷大学国際社会文化研究所紀要 6, 119-131.
- 園部真美・恵美須文枝・高橋弘子・鈴木亨子・谷口千絵・水野千奈津・岡田由香(2008). 地域住民のボランティア活動に対する意識の実態 日本保健科学学会誌 10(4), 233-240.
- 田引俊和(2005). 知的障害者のスポーツ活動を支えるボランティアの参加動機に関する研究 医療福祉研究, 1, 85-93.
- Tschirhart, M., Mesch, J. D., Perry, J. L., Miller, K. T., & Lee, G.(2001). Stipended Volunteers: Their Goals, Experiences, Satisfaction, and Likelihood of Future Service, *Nonprofit and Voluntary Sector Quarterly*, 30(3), 422-433.
- 塚本剛志(2006). ボランティアの動機と文化的要素—スペインにおける予備的考察— 国際研究フォーラム, 32, 157-172.
- van Gelderen, C.E., Savelkoul, T.J., van Dokkum, W., & Meulenbelt, J.(1993). Motives and perception of healthy volunteers who participate in experiments. *European Journal of Clinical Pharmacology*, 45(1), 15-21.